

第2回授業研究会

11月10日(火)

指導助言者として、秋田県教育庁特別支援教育課より高田屋陽子先生をお迎えして行いました。提示授業の学習指導案はホームページからご覧になれます。

提示授業 中学部1年、中学部3年、高等部1年 自立活動「朝の活動・朝の会」

これまでの研究成果でもある、授業づくりにおいて大切にしている4つの観点(言葉掛け、姿勢づくり、教材・教具、授業展開)から「言葉掛け」と「授業展開」に重点をおいて指導を進めました。生徒の障害の状態、発達段階、生活年齢、学習場所の制限等を考えながら、コミュニケーションの深まりや広がりを目指すために必要なベースづくりを大切に授業づくりを行いました。

「朝の活動」では、教師と一対一でじっくりと関わり、その日の体調に応じて気持ちや体調の安定を図りながら個々の課題に取り組む活動を設定しました。「朝の会」では、ねらいに迫るための具体的な活動内容を設定し、自立活動の指導の基本をおさえ、個々の生徒の良さを引き出しながら集団の活動の楽しさや一体感を感じられるような朝の会を心がけて授業を行いました。



授業研究会 協議題「自発的な動きを促すための授業展開・言葉掛けについて」

2つのグループに分かれて協議を行いました。協議では両方のグループで「次の段階をどのように設定して授業づくりを行うか」ということが話題になりました。それに関連して「達成感を味わえる課題設定」「詩の朗読場面における言葉の力」「コミュニケーションを深めていくために必要なこと」について活発な意見交換が行われました。

【協議会より(一部抜粋)】

- 朝の会は確実に力がついていく。卒業後の生活につなげていくために、どのような力を付けていきたいのか考えて授業を行っていく必要がある。
- 授業の中で注目を浴び、例えば自分がやらないと次に進めない活動を設定して達成感を味わえるようにしたい。
- 授業の中で安心感や見通しを十分にもっていたことで自発的な動きが引き出されていた。
- 授業の中では、生徒が持っている力が十分に引き出されていたが、グループの実態からコミュニケーションを成立するためには教師の仲立ちが大切である。まずは今を大切にじっくり取り組みを積み重ねていくことで、次の課題が見えてくるのではないか。

指導助言 秋田県教育庁特別支援教育課 指導主事 高田屋陽子先生

- 朝の会の形式にこだわらず、授業を受ける生徒にとって必要なものから授業を組み立てたことがよく分かる授業だった。生徒の細かな変化を授業者はよく分かっていた。
- 授業中に使用していた教材について、なぜこの曲、詩、音、歌だったのか、よく検討されて使用していることが授業を見てよく分かった。第三者が見たときに参考になるよう、題材を設定した理由を指導案にも詳しく盛り込んでほしい。
- 「自発的な動きを引き出す」ということについては共通理解が必要。授業の中での3人の発信はそれぞれ違っていたが、見ようとする、聞こうとすることが3人の自発的な動きであり、その次に手を伸ばす、声を出す、という自発的な動きが出てくる。また、このグループの実態から「触れる」というのも大切にしたい感覚である。
- 学校で培った力は必ず「根っこ」に残っている。培う力は手の動きや発声だけではない。今日の授業で一緒に盛り上がっていた同室の卒業生にも、授業を感じる力が残っていた。学校での取り組みに自信をもってほしい。また、病院との連携として、できるようになったことを伝えてほしい。